

困難で中止)にて LCA 領域の低 count, 肺野集積増大を認めため、冠動脈造影を施行した。5° 90%, 6° 90%, 11° 99%, 13° 75%狭窄と、RCA から LAD, PL への側副血行を認め、左室造影は正常であった。この為冠動脈バイパス手術を施行した。非典型的な主訴を伴う 2 vessel disease の一例を報告する。

14. Kent 束切離に成功した 1 症例

依光一之, 鈴木 勝, 竹内信輝
(旭中央)

今回我々は頻脈性心房細動にて来院した WPW 症候群の症例に対し Kent 束切離術を行ったので報告する。症例は特に既往歴のない 35 歳男性。めまいを主訴に他院を受診時に WPW 症候群の心房細動と診断され抗不整脈剤の投与を受けたが改善しないため当院受診、直ちに直流除細動を施行したところ洞調律に回復した。電気生理学的検索にて Kent 束の有効不応期は 260 msec と短くその部位は右室前壁側と推測された。当院心臓外科にて Kent 束切離術を施行時に右房ペースメーカー下に心室興奮伝播図を作成し右室自由壁やや前方に心室最早期興奮部位を確認できた。本例のように短い不応期の Kent 束を有し心室細動に陥る可能性の高い症例には積極的に手術を行うべきものと考えられる。

15. Scimitar 症候群の 1 例

隈井俊彦, 依光一之, 鈴木 勝
竹内信輝 (旭中央)

Scimitar 症候群は、1960 年 Neil らにより命名されたまれな疾患で、右肺静脈が下大静脈に開口する部分肺静脈還流異常 (PAPVR) の一型であり、心臓の右方偏位、右肺の形成不全を伴うものである。

症例は 33 歳、女性。胸部異常陰影精査のため来院。その特徴的な異常陰影より scimitar sign を疑った。心臓カテーテル検査により、少なくとも右中下肺から異常肺静脈を介して下大静脈に還流している事が判明し、左右シャント率 35%、肺体血流比 1.46 の典型的な Scimitar 症候群と診断した。

本症候群は、本邦では 1985 年までに約 30 例の報告があるにすぎないまれな疾患であり、若干の文献的考察を加えて報告する。

16. DDD 型ペースメーカーの有用性と使用成績

野田和男, 石川隆尉, 佐野孝彰
高橋正志, 斉藤俊弘, 稲垣義明
(千大)

我々が施行した DDD 型ペースメーカー (DM) 16 例について、有用性と使用成績について検討した。内訳は、洞不全症候群 8 例、房室ブロック 8 例：単極型 3 例、双極型 13 例：全例心内膜電極である。自覚症状の改善は、VVI モードに比し、DDD モードが明らかに優れていた。安静時心拍出量、心胸比の改善とも DDD 型が優っていた。合併症としては、単極型を用いた 1 例において、心房リードの離脱、筋れん縮を来したが、その他、新たな心房粗細動、血栓症等は認めていない。機能不全としては、上記の例において、心房感知不全、心室感知不全、心室刺激不全を、他の単極型の 1 例で、心房感知不全を、双極型の数例で、一時的心房感知不全を来した。cross talk cross stimulation after potential sensing は認められなかった。以上 PM の作動状況の確認には、PM 用ホルター心電図が有用であった。経過観察中のモード変更は、心房感知不全を来した単極型 2 例を、VVI モードとした以外は、生理的ペースメーカーを行っている。今後は、運動耐容能について、DDD 型 PM の有用性を検討していきたい。

17. Rate-responsive pacemaker の使用経験

大沢春彦, 桑原洋一, 山中 理
石橋 徹, 下浦敬長, 角田興一
(千葉県救急医療センター)

Rate-responsive PM の植込みを、Medtronic 社製の Activitrix を 3 例、Vitatron 社製の TX model を 1 例経験し、各々の患者に運動負荷試験を行い、有効性を検討した結果、徐拍型の SSS の患者で、心筋に基礎疾患を持たず、かつ運動により心拍数に増加をみないものに対して特に有効性が高いことが推察された。また、Activitrix の動作特性について実験を行なったが、PM が受ける運動量が、parameter のひとつである activity threshold を起えないと rate-response が作動しないこと、activity threshold は運動後の pacing 頻度の減少にも影響を与えること、力学的な加速度の検知と pacing pulse 放出の間には時間的な delay が存在すること、pacing interval は msec の単位で連続的に変化していることなどが考察された。